

■160924 こども環境学会 熊本こども成育環境状況調査

2016.09.24 今井智也

■調査予定

被災者の生活環境の状況としては、被災市町村では熊本県が主体(熊本市は別)となり仮設住宅の建設がすすんでおり、仮設住宅での生活が定常的になってきている。そのような状況化、今回のこども環境学会としての、保育園、幼稚園等への支援のための4次調査として、益城町内で環境改善を提案した第二幼稚園と第五保育園仮設園舎のその後の状況を把握すると共に、応急仮設住宅やその周辺における生活環境の現状を視察し、子どもたちや子育て世代の方々の生活環境に関連する今後の課題、ニーズ等を調

9月24日				
	11:00	～	12:00	■益城町生活環境現地調査 安永応急仮設住宅団地 今井 ■益城町生活環境現地調査 飯野応急仮設住宅団地 今井
前回調査した時と同様に外部空間の子どもたちも含めた住民のコミュニティの場がほとんどないと感じ、今後、環境改善の必要性があると考え。				
	13:00	～	14:00	■益城町第2幼稚園 意見交 園長室 上益城郡益城町惣領1471 096-286-2055 福永園長 今井
前回提案させていただいた内容の説明と、ヒアリング調査を行い、園庭のスケッチなど参考にされることとなった。しかし、福永園長の悩みとしては、町立であるため、町の申請が通ってからうごくこととなるため少しずつ前へと進める方針である。まずは、震災の影響で斜めになってしまった外廊下上から樹脂木のデッキをしくところから町に提案することを考えられている。現在、震災の影響で壊れたところがほかにもところどころあるが、町が少しずつ修繕してくれているため、困っていることは少ないようだ。				
	15:00	～	18:00	■KASEI実行委員会 熊本県立大学 中ホール 熊本市東区月出3丁目1-10 KASEI実行委員 今井 O
先行して進んでいるKASEIの活動の内容についての共有が委員会の一番の目的。白旗団地、御船町、テクノ団地、木山団地などの活動報告があった。それぞれでのづくりとことづくりの二つの視点から活動しており、さまざまな角度からそれぞれの仮設団地に入り込んでいる印象を受けた。また、木山の仮設団地では、子育てをしている母親から子どもたちの遊び場がないことに対する声が多いという報告があった。今後の活動の進め方として外部にコミュニティの場や子どもの遊び場を提案していくことは環境改善として有益だと感じた。				
9月20日				
				■益城町第5保育所 電話での意見交換 榎木園長と電話で話させていただいたところ、我々が提案した環境改善の案に沿った中間領域の設置等のために、「すでに、工務店がついている。そして、靴箱などについても、追加施工済の状況にある。」とのこと。また、今困っているのは、「手洗い場、足洗い場の予算がないこと。できあがっているものを買って取り付けると高価すぎるので、現在検討中。」とのことでした。

